調査

埼玉県における産業動向と見通し

産業天気図は、一般機械、輸送機械が約10年ぶりに「雨」となる

概況

わが国の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、足元で大幅に下押しされており、厳しい状況にある。先行きについても、感染症の影響による厳しい状況が続くと見込まれる。

聞き取り調査の結果、埼玉県の産業天気図も厳しい状況となっている。1～3月期の天気図は、一般機械、輸送機械がリーマン・ショックの影響が出ていた2009年以来、約10年ぶりに「雨」となった。「小雨」が百貨店・スーパー、「曇り」が電気機械、鉄鋼、「薄日」が建設であった。

緊急事態宣言の発令もあり、感染症による県内産業への影響は広範囲にわたるものと想定され、今後も厳しい状況が続くと考えられる。4～6月期の天気図は、電気機械と鉄鋼が「曇り」から「小雨」へ、建設が「薄日」から「曇り」へ悪化する見込みである。

主要産業の動向は、以下の通り。

○**一般機械**の生産は、前年を下回った模様である。先行きの生産についても、前年を大きく下回って推移するとみられる。

○**電気機械**の生産は中国経済減速の影響から前年を下回った模様である。先行きは感染症の影響もあり、さらに落ち込むことが懸念される。

○**輸送機械**の生産は、前年を大きく下回ったとみられる。先行きも減少傾向が続くと予想される。

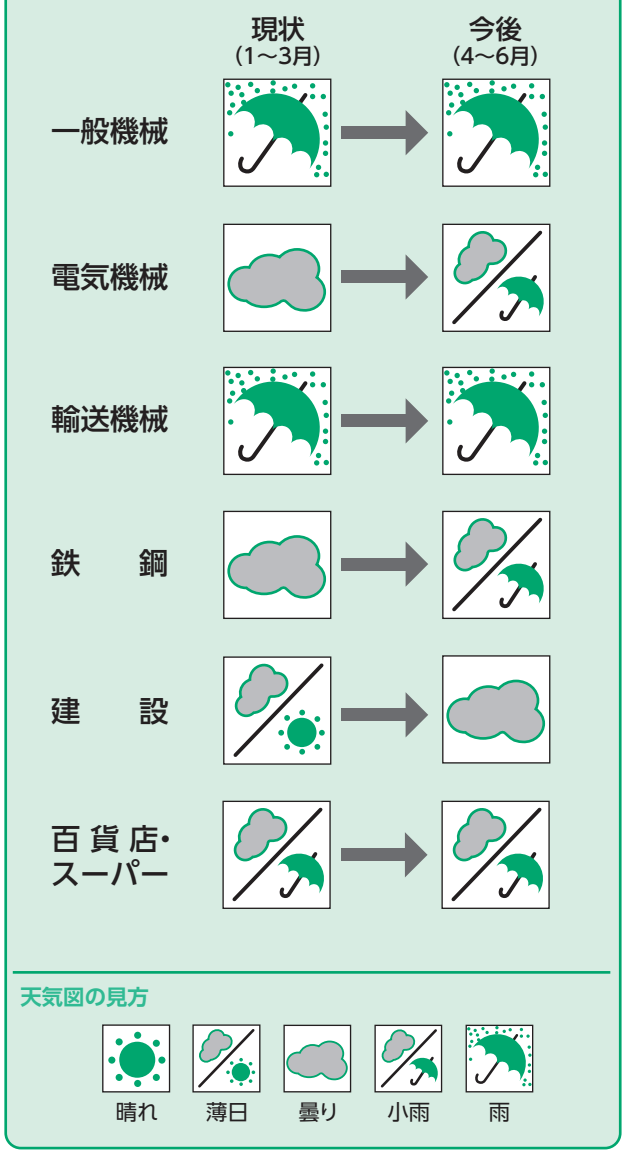
○**鉄鋼**の生産は、前年をやや下回ったとみられる。先行きも前年を下回って推移するとみられる。

○**建設**は、手持ちの工事量が多く全体としては前年並みで推移したが、住宅については減少が続いている。先行きは、工事中断の動きも懸念され、厳しくなることが予想される。

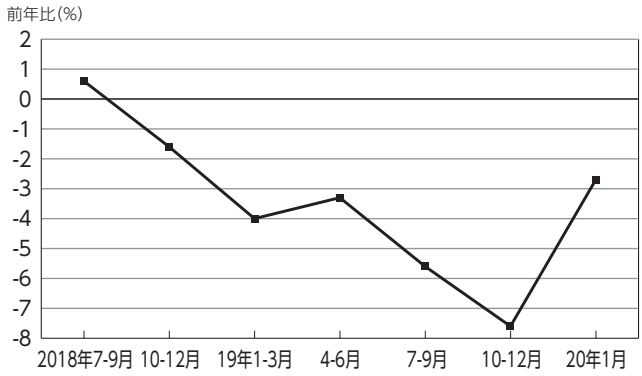
○**百貨店**の売上は大幅減少、**スーパー**の売上は前年を上回ったとみられる。新型コロナウイルスの終息までは厳しい状況が続くと予想される。

（本稿は2020年4月14日現在の情報を基に作成したものです）

産業天気図



●鉱工業生産指数（前年比）の推移（埼玉県）



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」

主要産業の動向

(1) 一般機械…前年を下回る

県内の一般機械(汎用機械+生産用機械+業務用機械)の鉱工業生産指数は、2018年4~6月期まで、5四半期連続で前年を上回っていたが、業務用機械の落ち込みなどを受けて、同7~9月期に▲3.9%と前年を下回った後は大幅な前年割れが続いた。2019年10~12月期には、▲1.9%とほぼ前年並みの水準まで戻したものの、プラス水準には届かず、6四半期連続の前年割れとなっている。

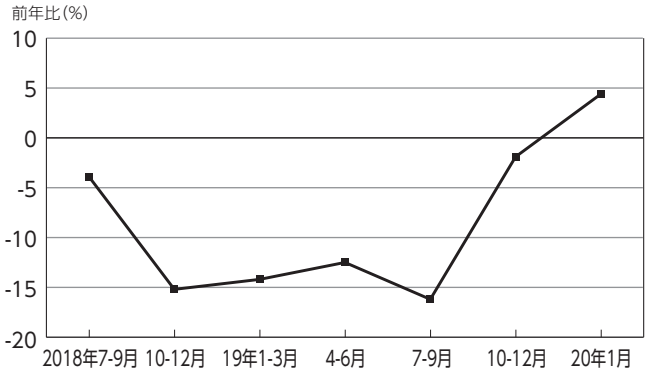
2020年1月の生産指数は、前年の生産用機械の落ち込み幅が大きかった反動からプラスとなった。2020年1~3月期を通してみると、米中貿易摩擦の影響が残るなか、新型コロナウイルスの感染が拡大したことで海外経済が減速しており、一般機械の輸出は落ち込んでいる。国内における企業の設備投資マインドの慎重化も加わって、一般機械の生産は前年を下回った模様である。

昨年末にかけて若干盛り返していた空気圧機器は、工作機械の受注減少を受けて、生産が減少している。自動化・省力化機器向けが比較的堅調だったことなどから、歯車は底堅い動きを続けてきたが、こちらも年明け以降は減速している。

半導体製造装置は、海外経済の減速を受けて、需要が落ち込んでいる。県内の半導体製造装置の生産は月ごとの振れ幅が大きいが、ならしてみれば前年の水準を若干下回っている。昨年後半に若干持ち直していた医療用機械器具も再び減少に転じており、足元も低調に推移しているとみられる。

新型コロナウイルスの感染が世界各地へ広がりをみせるなか、経済活動を大幅に制約される国が相次いでおり、世界的な景気減速が避けられない状況にある。感染が終息に向かう時期が見通せないなか、先行きについても、一般機械の生産は前年を大きく下回って推移するとみられる。

●一般機械の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」
(注)一般機械=汎用機械+生産用機械+業務用機械

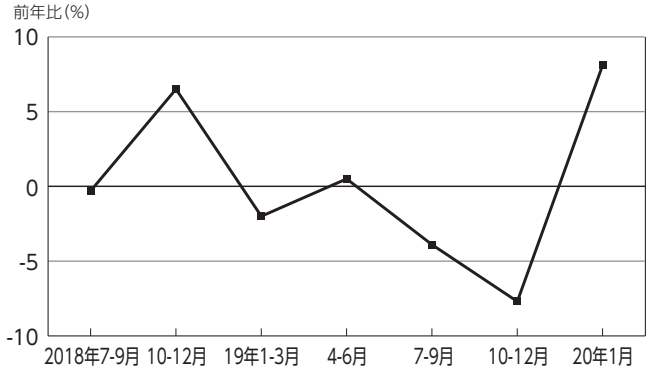
(2) 電気機械…前年をやや下回る

県内の電気機械(電子部品・デバイス+電気機械+情報通信機械)の生産指数は、2019年7~9月期前年比▲3.9%、10~12月期同▲7.7%と2四半期期連続で前年を下回った。中国を中心とした海外経済の減速により、輸出が不振なことなどから、電子部品・デバイスや、電気機械の生産が減少した。1~3月期の生産は年初、情報通信機器などの生産が持ち直したものの、新型コロナウイルスの影響も出てきており、前年比ややマイナスとなった模様。

電子部品・デバイスの生産は、中国経済の減速から自動車向け、産業機器向けの電子部品の需要が減少したことなどから、昨年後半は大きな落ち込みとなった。在庫循環による半導体サイクルが昨年後半から回復傾向にあり緩やかな回復がみられたものの、3月以降、新型コロナウイルスの影響もあり、自動車等の生産が大きく減少していることから、電子部品等への影響もでている。生産は予定通り行っているものの、在庫が増加する状況がみられる。

電気機械は県内で生産されるものは、産業向けがほとんどである。県内で生産される電気機械の多くは、生産機械や情報システムなどに組み込まれる部品や装置であり、組み込まれた機械は海外へ輸出されることも多い。このため、電気機械の生産は、企業の設備投資や、システム開発、海外経済の動向に影響を受けやすい。産業向けの電気機械は、

●電気機械全体の生産指数（前年比）の推移（埼玉県）



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」
(注)電気機械全体=電子部品・デバイス+電気機械+情報通信機械

中国経済の減速などから比較的大きな落ち込みが続いていることに加え、国内企業の設備投資向けも減少傾向がみられる。

情報通信機器は、大手電機メーカーの県内工場での携帯電話等の生産が停止されたことの影響で大きく落ち込んでいたが、カーナビ等自動車関連の製品などで、持ち直しの動きがみられた。

先行きについては、新型コロナウイルスの影響により自動車や家電製品、産業機械などの生産の減少が見込まれることに加え、工場の稼働を一時中断することも懸念され、電気機械の生産は、さらに落ち込むことが予想される。

(3) 輸送機械…生産は前年を大きく下回る

乗用車:県内の乗用車販売台数は、昨年10～12月期が前年比▲17.5%、本年1～3月期が同▲8.4%と昨年10月の消費増税以降、減少が続いている。消費増税の影響が尾を引いているところに、新型コロナウイルス感染拡大の影響が加わり、県内の乗用車の販売は低迷が続いている。消費者が不要不急の外出を控えているため、販売店への来客数が減少し販売が減少している。

生産動向をみると、県内の輸送機械（乗用車・トラック・自動車部品等を含む）の生産指数は、昨年7～9月期は前年比▲6.0%、10～12月期は同▲26.5%と減少が続いた。本年1月も同▲20.1%と減少し、1～3月期全体でも前年を大きく下回ったとみられる。消費増税や新型コロナウイルスによる乗用車販売の低迷に加え、県内完成車メーカーの新型車の発売が部品不具合の影響で遅れたため販売が減少し、これに伴い県内での生産も大きく減少した。一部車種の生産を県外に移管したことの影響もあるようだ。

新型コロナウイルスの影響で海外での自動車販売も激減しているが、県内では輸出向けの生産は少ないため生産全体への影響は小さいとみられる。

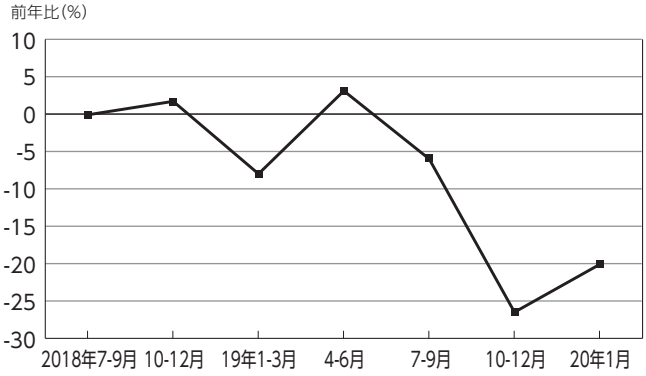
しかし先行きについては、完成車メーカーの工場生産の一時停止、新型コロナウイルスの影響で自粛ムードが高まり販売の低迷が続くことから、県内生産の減少は続くと予想される。

トラック関連:1～3月期のトラックの生産は前年割れとなった模様だ。

世界経済の減速を反映し、昨年から輸出が減少していたところに、国内販売の鈍化が加わった。首都圏の再開発やネット通販の拡大に伴うトラック需要は増加しているが、東京オリンピック関連の需要が一巡し国内販売の減少につながった。

現状では新型コロナウイルスの感染拡大によるトラックの生産・販売への影響は見られていないようだが、先行きは、海外景気、国内景気とも急速な悪化が予想されるため、生産・販売への影響は避けら

●輸送機械の生産指数（前年比）の推移（埼玉県）



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」

れないだろう。民間企業の設備投資意欲を冷やし、トラック購入が見直される可能性がある。

部品メーカー:乗用車、トラックとも完成車メーカーの生産が減少しているため、部品メーカーの生産も前年割れが続いた模様だ。

先行きについても、減少傾向が続くと予想される。

(4) 鉄鋼…前年をやや下回る

県内の鉄鋼の鉱工業生産指数は、堅調な鉄鋼需要を背景に、2018年4~6月期まで4四半期連続で前年を上回っていたが、同7~9月期に前年比横ばいとなった後は減少に転じ、2019年10~12月期まで5四半期連続で前年を下回った。

2020年1~3月期についても、鉄鋼の生産は前年をやや下回ったとみられる。

訪日外国人の増加に伴って、高い伸びを続けてきたホテルの建設は足元で一段落したが、都内のテナントビルについては、引き続き堅調に推移した。一時減速していた病院や介護施設などの医療関連施設も着工が持ち直した。

マンションは、建設コストの増加を受けて価格が上昇していることなどから、売れ行きが落ち込んでいる。マンション販売業者の多くは、発売戸数の絞り込みで対応しようとしているものの、一部では値引きを余儀なくされるケースもあり、新規着工には慎重な姿勢をみせている。

コスト面では、黒鉛電極やバナジウムなどの副資材価格は高止まりしているものの、スクラップ価格が値下がりしている。中国や韓国の鉄鋼生産減少を受けて、日本からのスクラップ輸出が落ち込んでおり、増加する市中在庫が価格を引き下げているようだ。鋼材の製品価格も低下しつつあるものの、メタルスプレッドは維持されており、生産量が減少するなかでも、鋼材メーカーは収益を確保できている。

都内の再開発プロジェクトなど、先行きも一定水準の鉄鋼需要は確保されているものの、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言発令を受けて一時的に工事が中断する現場が出始めている。4~6月期の鋼材の生産も、前年を下回って推移しよう。

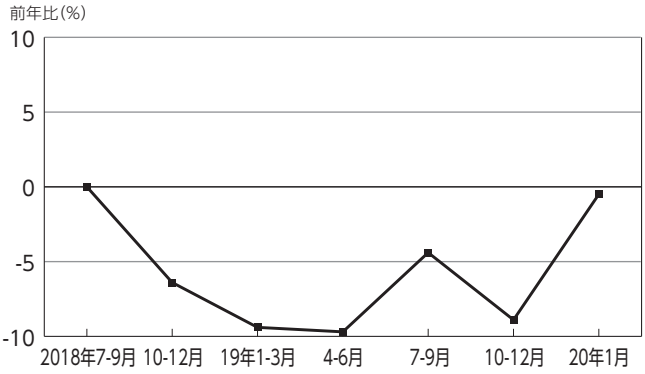
昨年春先に一時落ち込んでいた鋳鉄管の生産は、夏場にかけて持ち直した後は、比較的落ち着いた動きを続けている。銑鉄鋳物の生産は、昨年夏頃までは比較的底堅く推移していたが、米中貿易摩擦の影響などを受けて中国経済が減速するなか、秋口以降は輸出用の建設機械向けや工作機械向けを中心に減少が続いていた。2020年1~3月期に入ると、新型コロナウイルス感染症の影響も加わって、国内外ともに需要が大幅に落ち込むなか、鋳物の生産は前年を下回ったとみられる。

需要の落ち込みを受けて、製品価格は弱含んでいる。鋼材向けのスクラップ価格が下落するなかでも、より高品質な鋳物用スクラップの価格は横ばい水準にとどまっている。電力料金や副資材価格も高止まりしており、収益が圧迫されている。

生産の減少が雇用面にも波及しており、雇用調整助成金の申請を行う企業が増えている。一方で、感染症対策の一環として海外からの渡航制限が続くと、外国人実習生への依存度が高い企業では、生産に影響が出ることを懸念する声もあるようだ。

当面、建設機械向けや工作機械向けなど需要の弱さは続くとみられることから、先行きの銑鉄鋳物の生産も前年を大幅に下回って推移する見込みである。

●鉄鋼の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」

(5) 建設…ほぼ前年並みで推移

公共工事:県内の公共工事請負金額は2019年10～12月期は前年比+30.1%、2020年1～3月期は同+18.4%と大幅な増加となった。なお、2019年年間では同+5.8%であった。公共工事の発注は月により振れはあるものの順調で、建設業者の受注残は多く、足元の工事量も高水準で安定している。都内の大手業者が引き続き繁忙なため、県内業者の受注状況は価格面を含めて良好であり、相応の収益を確保できている。

老朽化したインフラの更新や補修の必要性が高まっており、建物のほか、河川、橋梁、道路なども改修・補修、耐震化工事が多く、一方で新規の建設案件は少ない。

先行きは、当面堅調に推移するとみられるが、工事の一時中断も検討される状況にあり、工事量の減少も懸念される。

民間工事:県内の非居住用の建築着工床面積は2019年10～12月期は前年比+6.8%と3期連続でプラスを持続したが、2020年1～3月期は前年を下回った模様。民間工事は、着工ベースで弱含みとなっている。ただ、受注残は相応にあり、工事量は高い水準にある。

種類別では建て替え、補修を含めて病院、介護関連などの医療・福祉施設の工事が多い。設備投資の回復から好調だった工場やビルの改修、建て替えなどは、このところ減少している。物流関連や商業関連は大型工事が多く、振れはあるものの、好調を持続している。都内の大手業者が工事を多く抱え、県内の工事は比較的大きなものでも、県内業者が請け負うようになっており、収益環境は良い。受注残が多いため、現在の工事に注力しているところが多い。

先行きは、当面は現状程度の推移が見込まれるが、新型コロナウイルスの影響もあり、工事の一時中断や企業の設備投資意欲減退の影響が懸念されている。

住宅:2019年10～12月期の新設住宅着工戸数は前年比▲16.7%の減少となり、2019年年間でも▲13.4%となった。2020年1～3月期も着工の減少が続いている。

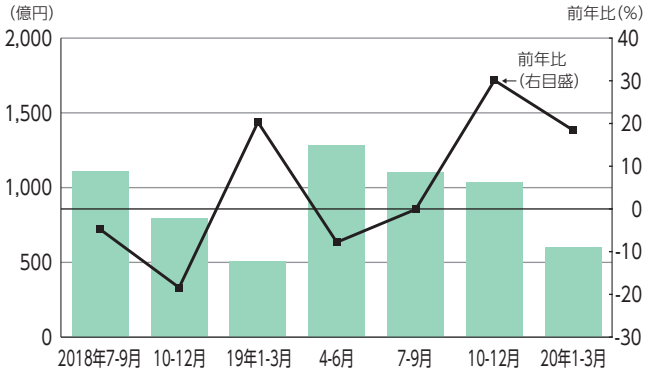
マンションは建設コスト高から、価格が高止まりしており、全体として販売が不調となっている。埼玉県におけるマンションの契約率は、このところ、好不調の目安といわれる70%を下回って推移している。浦和や大宮で駅に近い物件は高価格にかかわらず売れるものもあるが、利便性にやや劣る物件は販売が厳しく、県全体では供給は抑え気味である。また、子育て中の夫婦などで、通勤が楽な都内の物件のニーズが高く、埼玉県のマンションの売れ行きに影響している面もあるようだ。こうしたことから、県内での着工は手控えられている。

戸建の分譲住宅もやや減少傾向にある。ただ、マンションに比べると減少幅は小さく、比較的安定している。

貸家は、空室率は低下傾向にあるが、供給過剰の懸念は依然強く、新規の着工は引き続き手控えられている。

先行きは、マンションは販売の不振に加え地価の上昇や好立地の土地の供給が少なくなっていることもあり供給は手控えられるとみられる。貸家は、引き続きやや弱含みの見込み。新型コロナウイルスの影響については、外出の自粛に加え、所得面の不安が出てくると、購入に慎重な姿勢が広がることが懸

●公共工事請負金額(前年比)の推移(埼玉県)



資料:東日本建設業保証㈱

念されている。また、中国から水回りなどの部材の納入の遅れや、工事の一時中断などの影響が出ることも懸念されている。

(6) 百貨店・スーパー…百貨店は大きく減少

百貨店:1～3月期の売上は前年を大きく下回ったとみられる。昨年10月の消費増税による反動減に加え、暖冬の影響で売上の減少が続いたところに、新型コロナウイルスの感染拡大による影響があり、売上が大きく落ち込んだ。政府によるイベントの自粛や臨時休校要請後の3月以降に売上が急減した。

不要不急の外出を控える動きが強まり来店客が減少、とくに高齢者の来店が減少した。食料品と生活必需品を買って買い物は終了、という顧客が多く、衣料品などを見ることが少なくなっている。生活必需品中心の買い物なので、百貨店にとっては非常に厳しい状況となっている。

品目別では食料品を除き苦戦が続いている。とくに、これまでも低迷が続いていた主力の衣料品がさらに落ち込んでいる。例年3月は、入学・卒業関連で制服やスーツなどのフォーマルウェアの売上構成が大きいが、卒業式や入学式の取りやめが相次ぎ打撃が大きかった。一部の百貨店では、営業時間の短縮や物産展等の催事・イベントの中止もあり、売上減につながった。

比較的堅調だった富裕層の消費も、株価の下落などもあり低迷している。インバウンド(訪日外国人)の来店客が激減し売上が減っているが、県内百貨店では売上全体に占める割合が僅かで全体の売上への影響は小さかった。

一方、ネットや電話を使った商品の購入は増えている。通常は来店して購入する化粧品などの商品の注文が増加している。

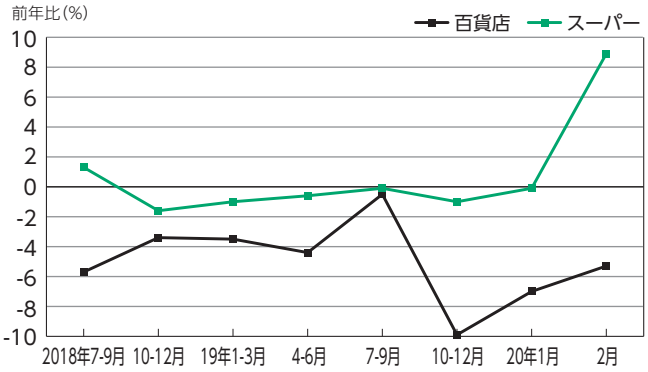
先行きについては、消費マインドの落ち込みや、緊急事態宣言発令に伴う臨時休業もあり、売上は大幅に減少すると予想される。四半期ごとにみると、県内百貨店の売上は2015年7～9月期以降減少が続いており、2020年4～6月期も減少すると、減少は丸5年続くことになる。

スーパー:1～3月期の県内スーパーの売上は、前年を上回ったとみられる。主力の食料品が軽減税率対象のため消費増税による反動減は小さかったが、暖冬の影響で衣料品の販売が振るわなかった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大で、政府がイベント自粛や臨時休校を要請した2月の終りには、米、加工食品、トイレットペーパー等の買いだめの動きがあり、2月の売上は大きく増加した。

3月に入っても食料品と衛生用品などの生活必需品を買い求める流れは変わらず、こうした商品は販売増が続いている。外出を控える傾向が続き来店客は減っているが、内食需要の高まりもあり食料品の動きが活発になっているほか、ネットスーパーの利用が増加している。一方、衣料品は低迷した。とくに3月は入学・卒業関連でスーツ類がよく動くが、卒業式・入学式の中止で売上が減少した。

現状では食料品と生活用品が増加しているが、各家庭に行き渡ればこうした動きはいつまでも続かないとみられ、先行きについては厳しくなると予想される。新型コロナウイルスの影響が一段落すれば、販売は上向きになるだろうが、通常の動きに戻るだけでV字回復というわけにはいかないとの見方があった。

●百貨店・スーパー販売額(前年比)の推移(埼玉県、既存店)



資料:経済産業省「商業動態統計」